

田村ひろゆき通信 H30.1

発行元:田村ひろゆきとわかりやすい政治をつくる会 代表:田村ひろゆき
〒188-0013 西東京市向台町 6-5-4 ホームページ <http://tamura-h.net/> メール info@tamura-h.net



プロフィール 1978(昭和53)年西東京市生まれ。上向台小学校、田無一中、中央大学法学部卒。元衆院議員秘書、元武蔵野大学職員。
2014年12月の市議会議員選挙に初挑戦するも及ばず。県議秘書を経て、現在は都内の旅行会社に営業職として勤務。

【歩きタバコ】 迷惑なのは駅前だけですか？



2020年の東京五輪を前に、受動喫煙問題が政治の場で取り上げられる機会が増えてきました。タバコが健康に与える影響、特に吸っている本人だけでなく、副流煙を吸わされる周囲の人への害が大きいことは、周知の事実だと思います。

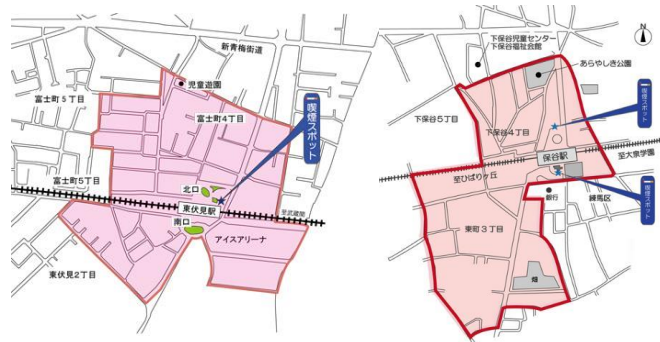
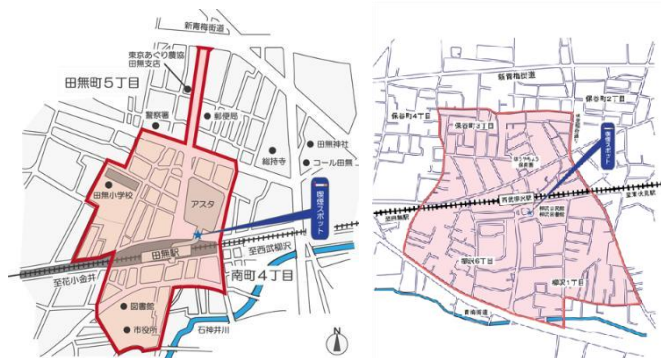
私はここ数年会社員生活を続けており、毎朝田無駅から西武線に乗って通勤する日々を送っていますが、駅への道すがら、ほぼ毎日と言っていいほど「歩きタバコ」に出くわします。同じ時間に通れば同じ人が吸っているというのはある意味当然ですが、時間帯を少しずらしても、また別の人が吸っているのに遭遇します。しかも、悪びれもせず、という感じで堂々と吸っている人も多いです。後ろに人がいようと、小中学生の通学路であろうと、お構いなしです。



駐輪場まで自転車で行く私が特に困るのは「自転車タバコ」。目の前を機関車よろしく煙を吐きながら走る自転車があると、よほど全力で追い抜くか、ペースを落とすなり回り道するかしないと避けられません。現実には、一本吸い終わるまでたっぷりと副流煙を浴びせられることとなります。

「路上喫煙防止地区」は4駅周辺のみ

西東京市でも「路上喫煙(ポイ捨て)防止地区」というものが市内4駅の周辺に定められており(ひばりヶ丘駅周辺は未指定!)、路面に防止地区であることを表示するなどの取り組みも行われています。しかし、「防止地区」というエリアをわざわざ区切るということは、逆にそのエリア外ならいいんだらうというメッセージにもつながりかねません。(裏面へ)



市内4駅周辺の「路上喫煙防止地区」
ひばりヶ丘駅周辺には設定されていない

市内全域で「歩きタバコ・ポイ捨て」禁止を！

私は以前、市民会館近くの路上でタバコを吸っていた人に対し、駐輪場の出口近くで人の往来もあり目に余ったこともあり、「迷惑ですよ」と注意しました。すると、「ここで吸っちゃいけないという決まりでもあるのか！」と逆ギレされてしまいました。

喫煙者にも権利がある！という主張もあります。もちろん、彼らに今すぐにやめろと言うつもりはありません。しかし、当然ながら**権利の主張は相手の権利を侵害しない範囲で可能なわけ**です。携帯電話なら「電車の中ではマナーモード、通話はしない」というルールがあるように、何事も相手に迷惑にならないよう行われるのです。

マナーの範疇で片付けばそれに越したことはありません。しかし、それでは解決しない以上「ルール」化するほかありません。隣接自治体では、すでに練馬区が区内全域で「歩行喫煙とたばこのポイ捨て」を禁止していますし、他の自治体でも同様のルールを設けるところが増えていきます。

丸山市長は「健康都市」を高らかに宣言しています。そうであるなら、多くの市民の健康に影響を与えるタバコの問題でも一歩踏み込み、**場所に関わらず「歩きタバコとポイ捨ては禁止」というメッセージ**を出すべきです。



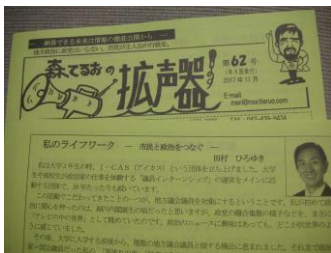
東伏見駅(西東京市)と武蔵関駅(練馬区)の駅前の歩道「防止」と「禁止」の違いだけでも印象はかなり違う

庁舎統合、図書館・公民館問題は怎么样了？

何度も取り上げているこの問題。市議会に対して示された内容によると、

- ①庁舎は暫定措置として田無庁舎の市民広場に仮設庁舎を建設し、保谷庁舎の機能を移転する
 - ②中央図書館と田無公民館は移転せず、耐震補強をしながら使い続ける
- という話で進んでいるようです。結局のところ問題先送り、その場しのぎの対応に終始しています。さらに問題なのは、いまだ市民に対しては何の説明もなされていない点。3館合築問題では行政が一方的に案を提示して、多くの市民の反発を招いたにもかかわらず、**市民不在の行政運営は相変わらず**です。

「森てるおの拡声器」に寄稿中



昨年7月から「森てるおの拡声器」に記事を書かせていただいています。森さんとの関わりは、私が大学生の頃に立ち上げた「議員インターンシップ」を運営する団体で知り合ったのがきっかけ。20年近い関係になります。もちろん別人格ですので考え方が違う部分もあるとは思いますが、「情報の徹底公開」や「地方政治に政党はいらない」など政治姿勢の多くに共感しています。こちらも是非お読みください。

紅白では櫻坂 46「不協和音」にくぎ付け

大晦日の紅白歌合戦では櫻坂 46 のパフォーマンスにくぎ付けになりました。「一度妥協したら死んでも当然」「ここで主張を曲げたら生きてる価値ない」といったメッセージ性の強い歌詞が印象的です。

一方、「忖度」が流行語となった昨年の政界。忖度という言葉自体は必ずしも悪い意味ではありませんが、周囲に流されずに正義を貫くという「不協和音」の世界観とはずいぶん違った印象を政治に対して抱いた方も多かったのではないのでしょうか。

そんな中、先の総選挙で議席を伸ばし、野党第一党に躍進したのは立憲民主党でした。枝野代表もこの「不協和音」の歌詞がお気に入りだそうですが、妥協せず、主張を曲げないという印象を抱かせた立憲民主党が躍進したことは、決して偶然ではないように思います。